

## 北朝鮮人権侵害問題

福島県立平支援学校高等部 3年 谷 康大

横田めぐみさんは、一九七七年昭和五十二年十一月十五日、十三歳の時に新潟県新潟市において新潟市立寄居中学校からの下校途中に北朝鮮の工作員に「拉致」されました。

僕は十三歳の子供、中学生が、ある日突然北朝鮮に連れ去られたという驚きと、バトミントン部の活動の帰りという身近な日常生活の延長線上に「拉致」という犯罪が潜んでいたということに恐怖を感じました。「拉致」という行為は、「拉致」された人の人生やその人の家族の人生、そして「拉致」された人につながるいろいろな人の人生をズタズタに引き裂いてしまいます。これらは、犯罪であると同時に人権侵害です。僕は怒りを覚えました。

北朝鮮は日本人を連れ去った上で、日本の習慣や言葉をスパイに教える先生にして、北朝鮮人を日本人になりすまさせたりするという元々は、北朝鮮が韓国を社会主義国にして朝鮮半島を統一しようとした事から「拉致問題」が、始まっている。日本人を「拉致」する以外に方法はなかったのか。何故日本語をスパイに教えるためだけに様々な職種の日本人を拉致する必要があったのか。「拉致」は、全て北朝鮮の身勝手な理由から起きている犯罪です。

障害者権利条約というものがあります。これは、身体障害者、知的障害者、精神障害者の尊厳と権利を保障するものです。僕は障害をもっていますが、日本は勿論、世界中の障害者の権利は守られています。つまり、人権が守られているということです。僕は、僕達障害者の人権にかかわる歴史を調べたことがあります。僕達障害者は明治時代になっても、国の役に立たない存在、社会に不要な存在とされていました。僕達、障害者は、第二次世界大戦後、法整備が整い始め、ようやく人権が保障されるようになり、現在は誰もが自分らしく生きられる社会になってきました。

人権が保障されない社会だったら、僕は苦しくて恐ろしくて、生きる事が辛くなると思います。

北朝鮮に「拉致」された横田めぐみさんは今、何を思っているのでしょうか。横田めぐみさんは今、僕達、障害者が人権を無視され続けた歴史の中の憤りを二〇一八年の今現在、感じ続けているのではないのでしょうか。差別を受けて苦しんでいるのではないのでしょうか。

僕には妹がいます。その妹が横田めぐみさんのようにある日突然、北朝鮮に「拉致」されたとしたら、僕は一人でも「妹を返せ」と、北朝鮮に声を上げます。だから、横田めぐみさんのことを「元気でいますように」とか、「無事帰ってきますように」とか願うだけではなく、僕達、日本中のみんなで「めぐみさんを返せ！」と北朝鮮に向かって声を上げていくべきだと思います。